



させほ夢大学

発行●公益社団法人 させほ夢大学
編集委員会
事務局／〒857-0863
長崎県佐世保市三浦町4-30・松蔵ビル3F
TEL.0956-25-9555 FAX.0956-25-9545
https://www.yumedai.com/
E-mail:sasebo_yumedai@yahoo.co.jp

開催ご案内 25-9556

夢のつづき

させほ夢大学会報

No.331 〈2023・11〉

令和5年度
第8回

2023年 11月16日(木)

開場 17:30

講演 18:30(終了20:00)

アルカスSASEBO 大ホール

第8回講演会は、歌手 由紀さおりさん・声楽家 安田祥子さんの姉妹を講師にお迎えします。

お二人は、子どもの頃から、ひばり児童合唱団に所属し、童謡歌手として活躍。その後、姉の安田祥子さんは、東京藝術大学やニューヨークの音楽院で学び、東京藝術大学の講師を18年続けたのち、コンサート活動専念のため勇退。

また、妹の由紀さおりさんは、「夜明けのスクヤット」でデビューし、芸能界へ。俳優や司会・バラエティなど、幅広いジャンルでご活躍です。

姉妹の活動は、1982年に、由紀さおりさんのコンサートに、安田祥子さんをゲストに招き、二人で童謡を歌ったことがきっかけです。



その後、1986年、姉妹による童謡コンサート「あの時、この歌」が、手づくりコンサートとしてスタート。

以来、日本語のもつ美しさや日本人の心や姿を伝える童謡の数々を、次世代に歌い継ぎたいという思いから国内外で公演を続け、2023年で37年目を迎えました。

由紀さおりさんは、「させほ夢大学」2回目のご出演。今回は、姉妹で「童謡コンサート2023」として、懐かしい童謡の数々をご披露していただきます。四季の移ろい、小動物や相手を思いやる気持ちが、きれいな日本語で、会場いっぱいに広がることでしょう。

さあ、皆様、お二人の童謡の世界をどうぞ満喫されてください。

講師 ● 歌手 ゆ き 由紀さおり氏 ● 声楽家 やすだ さちこ 安田祥子氏

由紀さおり・安田祥子 童謡コンサート2023



撮影：畠中和久氏

次回のご案内

- と き／12月14日(木) 18:30～20:00
- 講 師／城郭考古学者 せんだ よしひろ 千田 嘉博氏
- テーマ／徳川家康と天下人の城

●愛知県豊田市出身。日本の城郭考古学者。名古屋市立大学教授、奈良大学特別教授。中世・近世城郭の考古学的研究を行い、日本各地の城の発掘調査・整備の委員を務める。また、世界の城と日本の城の比較研究を行っている。「織豊系城郭」を提唱し、城郭を資料として歴史を研究する方法の確立に寄与した。2015年に濱田青陵賞を受賞。16年のNHK大河ドラマ「真田丸」の真田丸城郭考証者。18年奈良新聞文化賞を受賞。

11月の講演会は第3木曜日です。
今回、「夢のひろば」はありません。

由紀さおり氏・安田祥子氏のプロフィール

●姉 安田祥子、妹 由紀さおりは子どものころひばり児童合唱団に所属し、童謡歌手として活躍。その後クラシック界、芸能界へとそれぞれの道へ。1986年より姉妹で童謡コンサートをスタート。先人の残した日本の歌を子どもたちに手渡したいという思いで、活動を続け2023年に37年目を迎える。現在、『由紀さおり・安田祥子 with 木山裕策 童謡コンサート～家族のハーモニーⅡ～』を各地で開催。





三遊亭 好楽 氏



させぼ夢大学講演会

人生好んで楽しもう 講師 / 三遊亭 好楽 氏



■三遊亭好楽師匠の90分間の講演は、大笑いの楽しい時間でした。「人の一生は決まっているから、人様によくしてあげよう」「明日やることがあるのが一番幸せ」など、好楽師匠の言葉が心に強く残りました。

毎月の夢大学がとても楽しみです。素敵な学びの時間になるように、受講生の私たちも、せめて携帯電話や席取りなどマナーを守っていかねばと思います。講師とスタッフの皆様へ感謝して帰宅しました。

平戸市中津良町●宮崎 とし子

■好楽さんは、「笑点」のメンバーで一番好きな方です。今日は、どんな話をされるのか、心ワクワクで来ました。

さすが名人！ たくさんのお話を伺い、人生の楽しみ方のヒントを話してくださいました。

「人生好んで楽しもう！ 人生好んで笑いましょう！」ありがたい1日でした。

佐世保市陣の内町●井手 孝広

■好楽さんの口から出た1番多いセリフは、母親（お母さん・おっかさん・女将さん）ではないかと思いました。

やはり、最後の晩飯はお袋の味であり、誰でも母親のことを言われるのは弱いと小喃から感じました。

佐世保市早苗町●牧 千尋

■お笑いの世界では、どんな場合でも明るく振る舞って、笑いを提供しなければ生きていけない厳しい世界だとつくづく感じました。落語の「つる」は細かい仕草やよどみのない話芸で面白おかしく聴かせてもらいました。やはり笑いが一番です。

佐世保市中通町●安藤 光裕

■さすが、プロの噺家！ 好楽師匠。

「笑点」に出演されている時のイメージとは大違い。そろばんをはじく音、くびながどりの鶴の尾羽まで表現している仕草には感心しました。正に、「つー」と言えば「かー」ではなく、「るー」でしたね。

高座まで準備していただいた、スタッフの皆さん、ありがとうございました。

佐世保市大和町●宅島 富士彌

■暗いニュースばかりのこの頃ですが、講師の好楽師匠の登場を楽しみにしていました。お世話になった師匠たちのお話や、最後には落語まで聞かせていただき、暗い気持ちが吹き飛んでしまいました。

「笑い」というのは、みんなを幸せにする魔法のようだ、心から思いました。

佐世保市大宮町●田中 美禰

■笑って楽しい講演で、とても元気になりました。日常生活のちょっとしたことも、見方を変えて楽しもうと思いました。

佐世保市下本山町●山口 八重子

■笑顔が優しい好楽師匠。噺家の中で、悪口を言う人がいないということ、納得です。「笑点」に出演されている時とは、印象が違うなあ〜と、キャラを演じていらっしゃるのでしょうか。小喃も聞かせてもらって、笑いがおこりました。

1日の始まりは気持ちよく、まずは朝の挨拶、人への感謝（ありがとう）を忘れないで。また、明日を楽しく迎えられますように。

佐世保市赤崎町●木村 典子

令和6年度 第33期生募集について

令和6年度（第33期）の募集は、「夢のつづき」12月号と1月号の2回にわたり、応募用紙を掲載し、主要新聞には1月12日（金）に募集要項を折込みにして行います。募集受付期間 [1月31日（水）必着] に応募されたものを一括し、「抽選」にて決定しますので、ご了承ください。申込みは、お一人1枚とします。

【応募用紙による申込み】

12月初旬・令和6年1月初旬

“申込み応募用紙”を掲載した「夢のつづき」12月号・1月号を郵送します。

※紙面に33期講師予定掲載

【新聞等のはがきによる申込み】

令和6年1月12日（金）新聞折込み

●各新聞に「募集要項」折込み

長崎・西日本・毎日・朝日・読売

●折込みの範囲

佐世保市内、佐々町、川棚町、波佐見町
西海市、有田町

12月14日（木）、1月11日（木）講演会

2回の講演会のどちらかで、申込みを！

早めの申込みによる割引があります！

☆新聞折込みの「募集要項」掲載のはがきか、官製はがきにて受付

募集締切 [1月31日（水）必着] 後、一括コンピュータ抽選を行います。

長崎は今日も好楽日和だった☀

笑いは心の栄養かも

西松浦郡有田町 庄村 雅子

最近、テレビも新聞も戦争のこと、物価上昇のことなど、明るいニュースは聞かれなく、この先どうなるかと案じる日々を過ごしていました。でも、好楽さんの話でほっこりニコニコ、クスクス、楽しい講演会でした。

政治・経済・外交など難しい話も関心がありますが、年1回くらいは笑える講演もいいですね。舞台上に立たれただけで、頬が緩み、すごい嘶家さんと感じました。「笑点」は、亡き父が毎回欠かさず観ていたのを思い出しました。

朝は機嫌よく、感謝の気持ちを持ち、恩は岩に刻み、恨みは水に流す、なんとすばらしい言葉でしょう！ 少しでも実行に移したいと、これまでの自分の行いを反省させられました。古典落語、久しぶりに聴き、日本人でよかつたとしみじみ思いました。帰りの車の中で思い出し笑いで、軽やかな気分になりました。今回も、すばらしい講演をありがとうございました。明日への活力をいただきました。感謝！

心に感動を！ 人生に発見を！

北松浦郡佐々町 法本 安子

地元にながらにして、生で一流講師陣に出会い、お話を聞ける「させほ夢大学」。

講演を聴かれた感想をお待ちしています！

※締め切りは11月21日(火)(必着)
※宛先は、させほ夢大学事務局まで

今回の第7回は、誰もが知る、長寿演芸番組「笑点」のメンバーとしてお馴染みの好楽師匠でした。その名のとおり、落語界でこの人の悪口を言う人はいないと言われるほどの好人物。

落語の嘶には、暮らしの知恵、教訓、道徳、人が社会で生きていくためのルールが盛り込まれている。笑いの中で、人情の機微にふれ、人の気持ちかわかる人間味あふれる人でありたいもの。

今、世界で内戦・紛争が絶えない中で、平和で穏やかな国、日本に生きる者として平和の礎となった犠牲に感謝し、日々の暮らしの中の小さな出来事、何気ない言葉や挨拶を大事に生きる喜びを感じたい。

「人生好んで楽しもう」
物事を楽しむ心をもつことが、日々の幸せへとつながることを信じ、この生きづらい多様化の時代を生き抜きたい。古典落語の「つる」「みそ豆」の小噺もありがとうございました。77歳、すばらしい！ いつまでもお元気気で！
「どんな時も笑顔忘れぬ生き上手」

楽しめる心の有り様

佐世保市東山町 中溝 悦美

まず、時々感想文を出させていたのですが、スタッフの何人かで一生懸命吟味され、選んでいただいている旨の古賀理事長の話は、とても嬉しい思いでいっぱいになりました。私事ながら、9月、10月はスケジュールが立て込んでいて、疲れ気味でした。しかし、夢大学は外せないと思いい、10月の三遊亭好楽さんの講演を聴きに行きました。

最初、好楽さんが1946年生まれと話され、私はおや？、私は何年生まれだったかと頭の中で考えました。はつと我に返って、何と私より一つ下ではありませんか！ 驚きました。あの年で、いやこの年で、あの話ぶり。60歳くらいにしか見えません。さすがプロだと感じました。お母さん思いの優しい心で落語に興味をもたれたとはいえ、好

奇心あふれる笑顔であの体力。お人柄もよいのでしようね。体じゅうに表れていました。時々、落語を聴く機会はありませんが、やはり日本独特の芸能はいいものです。世界で争いがある昨今、日本の国の平和に感謝し、またこれが続くよう願わずにはいられません。楽しい時間をありがとうございました。

落語の力

佐世保市豊越 鷺見 邦子

今日は、「笑点」でお馴染みの三遊亭好楽さんの講演を楽しみにしておりました。幼くしてお父様を亡くされ、8人兄弟を一人で支えてこられたお母様を喜ばせたい一心で、落語の世界へ入門されたとのこと。その後、自分の選んだ道に常に真摯に向き合われ、努力された結果が今日の好楽さんの活躍を物語っておられるとつくづく思いました。

中でも、結婚式での父親のスピーチの物真似は、昔から変わらぬ庶民の人情と俗っぽさが表現されていて圧巻でした。周りの目も気にせず、大笑いしている自分がいて、心から笑いをもたらしてくれる「落語」の力に感動です。

今回のテーマである「人生好んで楽しもう」とおり、与えられた人生、二度とない今日を心の底から楽しんで日々大切に過ごしていきたい

笑って楽しむ人生を！

佐世保市南崎町 横山 春美

「夢のひろば」のJAZZ演奏は、独特のアレンジもあり楽しかった。今後の大いなる活躍を期待します。

今回、私は、好楽師匠の講演をとて楽しみにしていた。嘶家で師匠の悪口を言う人は一人もいないとのこと。名は体を表すか。

自分の育った厳しい境遇にふれて、父の急逝で母が一人で8人兄弟を育てたこと。並大抵の苦労ではなかっただろう。そのような母を見て育ったからこそ、今日の師匠があるのだろう。母を喜ばせたい一心で落語に興味を持ち、落語家を目指したという親孝行ぶりにも人柄が偲ばれる。大いに精進して、今の地位を築かれたと思う。

小噺では大いに笑った。次から次へと出てくる小噺の洪水に溺れた。つると首長鳥の嘶と最終盤の落語にも笑いの連続。長崎との縁では、前川清、さだまさしとの交友や、「長崎の鐘」には涙するといふ話もあった。

好楽師匠と地元出身で孫弟子のらっ好さんの益々の活躍を願ってやみません。



九十九島

ふもやま話

8

九十九島の名称

柴田 昭隆

九十九島は、いつ頃から「九十九島」と呼ばれるようになったのだろうか。

一説に、第九代平戸藩主・松浦清（隠居後、静山（せいざん）と号した）が羽後国（現在の秋田県）の象潟（きさかた）の景観にならって名付けたという。

松浦静山は、隠居した後『甲子夜話（かっしやわ）』と称する二七八巻に及ぶ身辺雑記を記した著名な文化人であった。その『甲子夜話』の中に、象潟の九十九島について記しているが、静山の興味の対象は火山の恐ろしさや地震の不思議さであった。一八〇四年（文化一）に鳥海山の噴火による大地震が発生し、象潟の九十九島は隆起して陸地となってしまうのである。

象潟は、松島、天橋立と並ぶ日本三景の一つであつた。

た。江戸時代までの景勝地は、奈良・平安時代の和歌に詠みこまれた名所旧跡（歌枕）であり、歌枕以外の風景はどんなに美しくても一級品として評価されなかった。このことには静山も同様の認識であったはずであり、歌枕でもない藩内の島々を「九十九島」と命名して賛美したという可能性は薄い。

伊能忠敬は日本全国を測量して回り、きわめて正確な日本地図をつくった。

一八二二年（文化九）末に平戸藩の測量を開始し、翌年正月から約一カ月をかけて九十九島一帯を測量している。伊能忠敬の『測量日記』を読むと、一月四日に伊ヶ浦半島の突端から測量を始めて、「九十九島内の黒小島に至る」、「九十九島内のマガラ島（枕島）の一周は五町三十九間（六一・六m）」と記している。

さらに手探りで調べていくと、測量結果を大成した一枚である『九州一円之図』（伊能図小図）には、「自甲崎至日野總日九十九島」（兜崎より日野までの島々を総称して九十九島と言う）と注記されている。この海域の島々は現在、南九十九島と呼んでおり、実際の島数はほぼ八十島である。

つまり、江戸時代中期にはすでに、現在の南九十九島を「数えきれないほどいっぱいの島がある」ことの表現として、地域の住民は「九十九島」と称していた。しかし、それは景観を賞美しての呼称ではなかったのである。

明治時代直前まで生きた第十代平戸藩主・松浦熙（ひろむ）は、観光開発に熱心だったようで、全国的な旅行ブームに合わせて領地内の奇抜な岩や景色を選び「平戸八景」とした。それらは平戸街道筋にあることから、旅行者や近郷の者が訪れる名所になった。しかし、この平戸八景の中に九十九島は含まれていない。

景勝地として「九十九島」と呼ばれたのは明治時代になってからのことである。



九十九島を巡る観光船パールクイーン

事務局だより

★三遊亭好楽師匠、ありがとうございました

「最後の30分は落語をした。」

好楽師匠の申し出により、高座を設置。「夢のひろば」終了後に、少し時間を要しましたが、やはりしていただきてよかったです。思いました。嘶家は高座に上がって絵になるといふ、正にそのとおりでした。

アルカスの会場へは、カジユアルな格好で登場。帰りも着物から普段着へと変身され、颯爽と会場を後にされました。やはり嘶家らしく、背筋が伸び、格好も若々しいなあと感じました。

人間味あふれる好楽師匠のお話と落語は、「人生好んで楽しもう」のテーマのとおり、人間としての生き方・考え方そのものと言えます。母親思いの優しい好楽師匠だからこそ、人生の苦勞を好んで楽に変え、生き抜いてこれたのではないのでしょうか。人生訓となる数々のお話と落語、本当にありがとうございました。

★素敵なJAZZの演奏がアルカスに響きました！
何とお洒落な時間だったでしょうか。

ピアノのみおさん、ベースの福田将之さん。お二人の息がピッタリのJAZZ演奏。夜のアルカスSASEBOが、神秘的な音の世界に包まれました。

今回、3曲ご披露していただきました。中でも、馴染みが深い「キラキラ星」の曲は、JAZZのアレンジで聴いてみると、別の曲になったかのように軽やかな音楽に変身しました。JAZZならではのスウィングするリズムや即興演奏の妙。JAZZって、素敵だなあと感じました。

佐世保市在住のお二人は、JAZZの魅力を広めるため、様々な所で活躍中。今度また、お聴かせください。すばらしい演奏、ありがとうございました。

「バラの折紙ツリー」をご覧ください！

させば夢大学では、今年もアルカスSASEBOの共催を得て、第21回「バラの折紙ツリー」を、以下のとおり展示します。

- 期間 11月23日(木・祝)～12月25日(月)
- 場所 アルカスSASEBO 2階ロビー

また、展示期間中の12月9日(土)には、「ツリー点灯式」と「ロビーコンサート」を行います。どうぞお誘い合わせのうえ、お越しください。

- 日時 12月9日(土) 午後5時～6時
- 場所 アルカスSASEBO 1階エントランスロビー

